



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2023年4月2日

No. 107

わたしは復活であり、命である。
わたしを信じる者は、死んでも生きる。

ヨハネによる福音書 11章25節・新共同訳



宣教40年の旅～100%感謝して

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5章16-18節a



第一の朗読でお読みいただいた、エゼキエル書 37 章に目を向けてみましょう。ここで示されている「死ぬこと」と「生きること」とに触れたいと思います。主は預言して言うように命じます。「枯れた骨よ、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る」。エゼキエルが命じられた通りに預言すると、骨の上に筋と肉が生じ、皮膚がその上を覆ったのでした。しかしその中に霊はありませんでした。主なる神は霊に預言せよと告げます。「霊よ、四方から吹き来たれ。これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る」。エゼキエルが命じられた通りに預言すると、「霊が彼らの中に入り、彼らは生き返った」のでした。さらに 11 節以下で、「非常に多くの、甚だしく枯れた骨」が、「イスラエルの全家」であると、明らかにされています。彼らは言っているのです。「我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる」と。彼らは絶望しているのです。時代背景に触れると、それはバビロン捕囚があげられます。彼らの罪のために、主によって捕囚の民とされた彼らは、長引く捕囚の中で、帰還する望みが失われたように思えたのでした。それほどまでに、自分たちの罪は深く、神の裁きもやまないように感じた彼らは、滅びを思わずにはいられなかったことでしょう。そのような彼らこそ、「枯れた骨」であると言われているのです。ところが神が預言者を通して言葉を告げ、また霊を吹き入れると、彼らは生きる者となったのです。甚だ枯れた骨のように深い絶望の中にあつた、彼らが主なる神によって「わたしはお前たちの土地に住ませる」と告げられる、確かな希望

を耳にしたのです。エゼキエル書が示しているのは、「死ぬ」とは、人間的常識の範囲に留まって、絶望することであり、「生きる」とは神の霊を吹き入れられること、すなわち神の御心のうちに生かされ、確かな希望を示されることであるとわかるのです。

エゼキエル書を通して、私たちは「死ぬ」ことは絶望することであるとも聞きました。しかし甚だ枯れた骨のように、絶望した民でしたが、神の言葉によって、霊を吹き入れられると、彼らは生き返ったのでした。どれほど絶望したとしても、どれほどその骨が枯れ、回復の見込みがないように思われても、神の言葉は、そして神の霊は、すべての人を絶望の中から確かな希望へと引き上げる力なのです。

神が「生きる」と言われる場合、そこには神との関係が存在します。それが「霊が吹き込まれる」という形で表されているのです。神との関係にあって、人は生きるのです。ですから、「死んでも生きる」と主イエスが言われているのは、この世の命が失われたとしても、神との関係にある命は失われることはないということなのです。死んだ者を生かす、絶望し涙を流す者に希望を与えられる、不安に怯える者と共におられる、これが「神の栄光」にちがいないのです。

人は「死なない」ことを望むのですが、神は「生きる」ことを望まれる。その心は、神は決して私たちの神であることをやめる神ではなく、私たちが生きている時はもちろん、死んだ後も私たちの神として、その関係を保ち、あなたを喜びとし、あなたを愛し、あなたを慰めるのです。この神にあって、私たちは生きるのです。(四旬節第 5 主日)

洗礼の信認

今年より「洗礼の信認式」では、区切りの年（5年ごと）を迎えた方々を特に覚えます。今年、区切りの年を迎えたのは、次の33名です。
おめでとうございます。5月28日の聖霊降臨（ペンテコステ）の礼拝にて、洗礼の信認式を執り行います。

- 70年 ○野○子姉（11/8）
65年 ○野○江姉（4/6）、○利○子姉（12/21）
60年 ○飼由○子姉（10/13）、上○○美姉（12/25）
55年 ○田勉兄（4/14）、○藤真○姉（4/14）、○山○子姉（6/8）
50年 ○田○子姉（12/23）、小○美○子姉（12/23）、
○藤満兄（12/23）
45年 名○恵○子姉（5/14）、○村○子姉（12/24）
35年 永○○子姉（12/18）、森○○子姉（12/25）、松○○宣兄（12/25）
30年 ○野○苑姉（1/17）、山○○司兄（4/11）
25年 ○野○子姉（4/12）、○野陸兄（4/12）、○田恵○郎兄（10/25）
20年 秋○ゆり○姉（4/20）、○田由○子姉（7/6）、森○子姉（12/21）、
○谷○一郎兄（12/21）
15年 津○○子姉（3/23）
10年 ○谷○美姉（3/31）、五十○○兄（12/21）
5年 ○池久○子姉（4/1）、○田○照兄（6/3）、吉○○沙姉（9/30）、
吉○朗兄（9/30）、吉○樹兄（9/30）

迷うことなく50年の信仰生活を過ごされた○藤さんのこと

「あれは厄年だったんですよ。」そう切り出した○藤さんのお話は、愛知県豊田市にある挙母教会での受洗のこと。当時はお子さんを教会学校へお連れになり、主日礼拝に出席していた○藤さん。世に言う「本厄」にご自身の年齢が至ることをきっかけに、人生を神様に委ねる決心をして、1973年12月に緒方一誠牧師から洗礼を受けたそうです。

数年後、横浜に転勤した○藤さんはルーテル日吉教会に通い、緑区霧が丘にご自宅を構えてからは藤が丘教会に教籍を移して信仰生

活を送っていらっしゃいます。教会の会衆席の聖書ポケットに置かれている天板は、サイズの大きな聖書を聖書台に開けるように「ビスケット隊」の名○さんと○藤さんが創作してくださったもの。棚や用具の収納枠など、気づけば教会各所にビスケット隊の秀作が見られます（個人的には我が家のタンスも直していただきました）。

今年で受洗から50年。○藤さん、どうぞこれからもお元気で。いつも主と共に。
（聞き手 ○野智○子さん）

2023 年役員紹介②

●○藤真○さん（伝道教育）

教会創立 40 周年の記念すべき年に、再び役員をさせていただくことになり、責任の重さを痛感しています。そして高齢者プロジェクトの担当も仰せつかり、この企画が私たちの思いではなく、神様の導きに信頼して進められることを願っています。立ち上げに当たっての話し合いも始まりました。前向きで積極的なアイデアが、よい形で実りつつあることを感じています。藤が丘の地域の方々に仕える教会として、小さな歩みがいよいよ産声をあげようとしています。みなさまと祈りを合わせ、一人一人に与えられた様々な賜物を活かして、楽しく励みたいと思います。宜しくお願いいたします。

●○野○之さん（会計）

私達の藤が丘教会は今年 40 周年記念を迎えますが、私は 2003 年（平成 15 年）に日本へ戻り、それからの藤が丘教会での信徒生活が 20 年になります。日本を離れる前にも藤が丘教会に通っておりましたが、藤が丘教会での信仰生活が再スタートした時には重富牧師、小副川牧師、そして現在の佐藤先生に導いていただいております。

歴代の牧師先生と信徒の皆様を支えられて、自分の教会生活を続けて来られたことに、とても感謝しております。それが自分の力ではなく、いつも主がそばにいてくれるのだと信じます。

ふと、NHK の「プロジェクト X」という番組で終わりに流れていた中島みゆきの歌う“ヘッドライト・テールライト”を思い出します。自分の旅はまだ途中で、後ろからも前から誰かが光を照らしてくれたから、今日まで生きて来られたのだということに感謝しつつ、これから、誰かの光になれるように生きてい

ければ幸いです。

役員として、少しでも藤が丘教会が居心地の良い場所になるように、皆様にそう感じてもらえるように、微力ながら力を出していければと願っております。

こんなにクリスチャンらしからぬ自分を支えてくれている主に日々感謝すると共に、最後まで皆様と仲良く、藤が丘教会で信徒生活を歩んでいきたいと思っております。

●田○○夫さん（代議員）

世田谷新町教会の発展的解消と共に藤が丘教会が産声をあげて 40 年が経ちました。ここまで大きく成長させて下さった神様に感謝申し上げます。感慨深く当時の事を思い起こしつつ、更なる教会の発展には一体何が必要なのかという新たなる視点をいま模索しています。プライベートでは、現在の体力維持のために週 3 日から 4 日ほど公園を散歩しています。右手にビデオカメラ、左手に万歩計を持っての歩行です。歩数は 15000~20000 歩、距離にして 10~15km と目標設定をしているのですが、なかなか思うように達成できません。でも、野鳥観察をされている年配の方々と知り合いになり、3 年の月日をかけてやっと「しあわせの青い鳥」と言われている「ルリビタキ」の＜雄＞の撮影に成功。{嬉しい!!!} 式文投影の時に皆さんに見ていただきます～。しあわせのお裾分けです。今年 1 年間、よろしくお願い致します。

●先月と今月の 2 度にわたって、2023 年度役員の方々の自己紹介をいたしました。皆さんが選ばれた役員です。皆さんと共に、この宣教 40 年の一年を歩んでまいりたいと思っております。お祈りとお支えをお願いいたします。地域に開かれた教会として、祈りを合わせていただければ、幸いに思います。（佐藤）

コロナ禍、コロナ後に感じたこと 通常の礼拝に戻って

●喜びと感謝を忘れずに ○井○子

“コロナ”と騒がれるようになって3年が経ちました。マスクや消毒が足らず右往左往。感染拡大し恐怖で家に閉じこもり。そのような生活に少しずつ慣れても、心にぽっかり空いた穴は埋まりません。それは教会にいけない事。スマホを持たずフェイスブックもできない私には、兄弟姉妹と共に礼拝する事ができません。辛く寂しい日々。

それだけにグループ分けであっても、いろいろな制約があっても、教会に行き礼拝できるということは、最高の喜びでした。少しずつ制約がなくなり、今以前のように全員で礼拝できることが、何と大きな喜びであり、恵みであるかと、心から感謝せずにはられません。また、心からある賛美を言葉を噛み締め、声を上げて歌える。何と素晴らしいことかと喜びに溢れます。

私にとって教会に繋がっていることが、どんなに生活の支えになっているか、神様からいただく、恵みがどんなに心の糧になっているかを改めて考えさせられました。これからも、この喜びと感謝を忘れずに教会に繋がっ

て行きたいと思います。

●歌う式文よ、永遠に ○田○郎

教会員が一同に会せる礼拝が再開され、皆さまと喜びを共有しております。日本が称揚するある「民主主義国」で教会活動が禁止される一方で、日本でのこの恵まれた環境に感謝致します。特に、礼拝式文を歌える日が戻ったことをうれしく思っております。思い出すのは小学校5年生の時。街角で遭遇したルーター派のドイツ人宣教師に導かれた小さな土曜学校。当時ロシア文学をとおしてキリスト教に親しんでいた私も周囲の反対で通い続けることを断念、将来必ずクリスチャンになるのだと秘かに誓ったのでした。ところが人生は紆余曲折、学生時代には無神論者を自称した時期もあり、各宗派の教会巡りを始めたのは28歳、そんなある時やっと懐かしいルーテル教会に辿り着きました。「ここが私の教会だ」と思わせたのも、この37年間にユダヤ教やロシア正教への改宗を思いとどまらせたのも、礼拝式文を歌う神秘的な心地良さだったかもしれません。

●女性会だより

3月19日 16名参加

1 聖書の学び

ルカによる福音書 10章 38-42節

マルタとマリアの姉妹の話

交わりが大切であり、みんなの奉仕が集まり、一つの奉仕となり、礼拝に集まってみ言葉を聞くことが奉仕である。

2 女性会例会

①東教区女性会からのお知らせ

(1)雪谷教会休会のお知らせ (2)世界祈禱日(3/3)はしばらくは配信される。(3)2024年(3/1)の世界祈禱日はルーテル教会が担当。パレスチナのために祈る。(4)会計監査(大岡山教会にて)の報告(5)今年度春のつどい 5月末また6月開催予定。テーマは「つなぐ」。(6)来年2月東教区女性会総会。6月連盟全国総会予定

②会計からの報告

ウクライナ支援献金とシリア、トル

コ震災被災者支援献金のついでの説明。

③週報に記載されている献金の氏名についての意見交換

④聖餐式について

佐藤先生より説明。

⑤次回例会 4月16日

●牧師室より



「奉獻」について、書いてほしいということですので、『礼拝の法は信仰の法』（松本義宣著）からご紹介したいと思います。

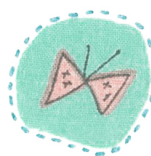
1)「聖書の時代にさかのぼれる信仰の行為で、古くはパンとぶどう酒を中心にその他様々な食物、物品、衣類、財産目録等にわたる奉獻が、信徒の行列を伴って行われました。もともと、ここで献げられたものの一部が聖別されて聖餐式に用いられ、他は、聖職者や病人、貧しい者の生活の糧のためでした。」（『礼拝の法は信仰の法』松本義宣著）

このことから「奉獻」では「パンとぶどう酒」が献げられ、「その他のもの」は「貨幣経済への移行に伴い」、献金という形に変化していったことがわかります。つまり歴史的に献金より先に、「パンとぶどう酒」の奉獻があったということが想像できます。

また次のような記述もありました。

2)「奉獻は歴史的には、聖餐と固く結びついた行為でした」。「ここで捧げられたものの中から、パンとぶどう酒だけが聖別されて聖餐式に用いられたり、今日でも、ここでパンとぶどう酒が献金と共に聖卓に運ばれる習慣も残っています」。(前掲書)

奉獻＝献金なのではなく、第一にそれは「聖餐と固く結びついていた」ことを知らなければなりません。私たちは「奉獻唱」を唱いますが、その内容は詩編51編となっています。ダビデが罪を犯し、預言者ナタンがそれを告げに来た時と冒頭にあります。「罪と



今月、受洗記念日を 迎えた皆さん

1日○池久○子姉 6日○野○江姉、○瀬○
恵姉、○山○明兄 7日 プラ○○梨姉
8日吉○○人兄 10日○田○子姉、○○よ
う子姉 11日○野○治先生、○林直○姉、
○内○司兄、○井雅姉、○林大○兄 12日
○野○子姉、○野陸兄 14日○田勉兄、田
○○子姉、○山薫姉、○木○子姉、○藤真○
姉 15日○野智○子姉、上○○秀兄、○橋
○葉姉、○山○一兄
20日 秋○ゆり○姉
21日○井○子姉 22日 ○山いずみ姉
23日○井梓姉

おめでとうございます。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙一5章16-18節a

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



その赦し」が主題となっています。「奉獻唱」が単に献金の歌であるなら、詩編51編が採用された意味がわからなくなるでしょう。しかし聖餐との関連で捉えるなら、聖餐＝罪の赦し、すなわちキリストの十字架とつながっていることが明確にされるのです。「奉獻唱」の言葉の意味をかみしめ、パンとぶどう酒に注目することで、聖餐へ向かって心が整えられるのです。

何かが変わるということは、なかなかストレスを感じることでしょう。しかし先月の女性会の際にも申し上げたことですが、このような歴史を私たちは「知る」ことが大切です。二次的な課題は、以上のような第一義的な課題と切り離して考えることが必要だと思います。



スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。